

ファザー・オブ・  
ザ・イヤー in みえ

大賞

川越町

おとこざわ ただのぶ  
男澤 忠宣さん

推薦者 男澤 沙織さん（妻）

育児対象 お子さん（2歳）



**推薦文：**夫は結婚した当初から、子どもができたなら育児を積極的にやりたいと言うほど、育児に関心がありました。念願がなつて子どもを授かり、私が1年半の育児休暇を取得した後、夫が、職場の理解もあり、今年4月から1年間の育児休暇を取得することができました。夫は以前から、（頼めば）家事全般、何でも手伝ってくれる人でしたが、いつも「お手伝い」であったため、4月当初は、1歳半の息子との長い1日をどうやり過ごすのか、子どもは私が出勤した後、泣き続けないか、家事はある程度やってくれるのかと心配がありました。しかし、私の心配をよそに、夫は、夫なりの大胆な方法で育児と家事をこなし、子どもと2人の時間を毎日楽しんでいるようです。

具体的な方法は、育児については、子どもと本気で遊び、くたくたに疲れさせる作戦。お弁当を持参して、近くの公園で裸足になって遊ばせたり、愛知県の水族館の年間パスポートを取得し、ことあるごとに行ったり（子どもは魚が大好きです）、近隣市町の遊び場やプールをリサーチし、2人で出かけて行ったりと、母親の私では決して体力が続かないであろう方法で、午前中遊びまわり、午後は3時間程度ぐっすり昼寝をさせるスタイルです。また、家事については、細かいことはおかまいなし、家電に頼ろう作戦。食器洗いは食洗機、子ども服や靴下などの小物は乾燥機、掃除はルンバなどなど、夫の得意分野である家電製品を駆使し、抜ける手はとことん抜いています。また、

調理については圧力鍋を使いこなし、材料を切って、入れて圧力鍋にお任せメニュー。野菜など、とろとろに煮えるので子どもと一緒に食べられます。たまにパン焼き機でパンも焼いてくれます。さらに、4月当初から私のお弁当もほぼ毎日詰めてくれています。私が育児休暇中にお世話になっていた児童館に遊びに行き、私のママ友に育児の相談も聞いてもらっているようです（ママ友や児童館の先生方から私宛てに連絡をいただいています）。家事での私の役目は細かいことをすること（アイロンがけ、排水溝の掃除、子ども服の汚れの漂白など）、また、夫が一人になれる時間を週に1回は作ることです。

子どももすっかりパパっ子になり、私が出勤するときには笑顔で見送ってくれます（泣）。また、寝かしつけの時は夫がいないと寝ないですし、私の仕事が休みの日に、子どもを私がみて、夫が出かけようとする、涙を流して泣きます。ちょっと切ない気持ちになりますが、夫が日ごろから子どもをよくみてくれている証拠だと思います。

夫はよく、父親が育児休暇をとっていても「すごーい！」と褒められない社会に変えていきたい、と言います。育児はとても気力、体力がいる仕事。男性のほうが適している場面が多々あります。父親が育児休暇をとることが当たり前の社会に近い将来くることを私も応援しています。

審査員共感  
ポイント

- とにかく1年間の育児休暇を取得できたことがすごい。
- 子どもと本気で遊び、くたくたにさせて楽しませるのは、男性だからできること。
- 「子どもを私がみて、夫が出かけようとする、涙を流して泣きます。」という状況が目に見えて共感できる。
- 「父親が育児休暇をとってもすごーい！と褒められない社会に変えていきたい」という熱い思いが素晴らしい。